

2023年3月28日 交通脱炭素シンポジウム  
「カーボンニュートラルに向けた燃料転換の戦略

～空・海・陸 各交通モードの最前線～

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日は、この会場にもオンラインによる視聴にも、大変多くの皆様にご参加をいただいております。誠にありがとうございます。

また、年度末のご多忙の折にも関わらず、本日のシンポジウムの開催にあたり、来賓のご挨拶をいただきます藤井直樹国土交通事務次官、基調講演を行っていただきます竹内純子先生、そして、プレゼンテーションとパネルディスカッションにご登壇いただきます皆様には、厚く御礼申し上げます。

さて、本日のシンポジウムは、「カーボンニュートラルに向けた燃料転換の戦略～空・海・陸 各交通モードの最前線～」と題して、航空、海運、鉄道、物流、空港及び港湾における、カーボンニュートラルに向けた取組・課題と今後の展望について取り上げます。

皆様すでによくご承知のとおり、気候変動の問題は、環境問題にとどまらず、産業の存廃を含め人間のあらゆる活動の持続性に関わる極めて重要な、そしてグローバルな課題であり、濃淡の差はありますが、全産業部門においてカーボンニュートラルへの取組が進みつつあります。他方で、交通部門、特に長距離輸送を担う交通モードは、電動化が難しく脱炭素化のハードルが高い“Hard to Abate Sector

(排出削減が困難な産業部門)”と呼ばれ、様々な低炭素・ゼロ炭素燃料の活用が検討されています。

これまで、交通部門において用いるエネルギーは、石油を原料に、重油、軽油、ガソリン、ジェット燃料、とそれぞれ上手く分けあう構図となっておりましたが、カーボンニュートラル時代においては、そのエネルギーが風力や太陽光などの再生可能エネルギー由来のものに転換していくこととなります。欧州ではエネルギー転換と脱炭素を合わせて戦略的に取組を進めています。このことは、当研究所の1月26日の研究報告会において、3人の研究員から報告したとおりです。

当研究所では、これまで、主として海運及び航空分野における脱炭素の取組について、国際的な動向を踏まえながら、それぞれ産・官・学の有識者及び当事者から成る検討委員会を設けて調査研究を行って参りました。

具体的には、国際海運については、国際海事機関IMOで議論中の、新たな代替燃料のライフサイクル CO2 排出量について調査し、その評価手法について広く世界に提言いたしました。また、航空分野については、国際民間航空機関 ICAO の CO2 排出削減制度である CORSIA 制度と 2050 年削減目標を踏まえて、我が国における持続可能な航空燃料 SAF の生産ポテンシャルや長期の CO2 排出削減見込みについて明らかにし、SAF の国産化の重要性を示しました。

これらの調査研究の成果は、それぞれ関係の政府機関・業界の皆様においてご活用いただいているところです。

しかしながら、本来交通は各交通モード単独で成り立つものではなく、我が国の国内もしくは国際的な輸送需要に対して複合的に、相互に作用しながらこれに応えていくという役割を担っております。

我が国における現在及び将来の交通の姿、期待される役割を考えれば、交通モード別ではなく、日本の交通産業全体として協調しながらカーボンニュートラルを追求していくことが重要であると考えています。

このような観点から、本日のシンポジウムは、交通の各モードの当事者の皆様に一堂に会していただき、それぞれの取組の最前線の状況をご報告いただくとともに、今後の課題と展望について一緒に議論していただくことを目的として、企画いたしました。

本日の議論を通じて、交通分野のカーボンニュートラルに向けた燃料転換の国内外の動向や将来の課題などについて、それぞれに情報や問題意識の共有を図り、今後どのような取組みや施策が必要となるのかについて、皆様と共に考察を深めたいと思います。

本シンポジウムにご参加を頂きました皆様並びに関係業界・関係機関の方々にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、冒頭の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。

(以上)